

HPVワクチンと子宮頸がん検診で子宮頸がんを予防しよう!

問い合わせ 健康推進グループ (☎0100)



○ヒトパピローマウイルス(HPV) と子宮頸がんについてのお話

子宮頸がんは、近年20～30歳代の若い女性に増えており、30歳代後半がピークとなっています。ちょうど出産年齢期に当たり、この病気により妊娠・出産を諦めなければならない場合があります。ヒトパピローマウイルスというウイルス感染が原因ですが、ワクチン接種によって高い割合で予防できます。世界ではすでにワクチンの安全性が証明され、積極的に接種を推奨しています。子宮頸がんは撲滅可能ながんと考えられています。いま一度ワクチンに対する正しい知識を得て、周りの大事な人と十分話し合い、ワクチン接種を検討していただきたいと思います。

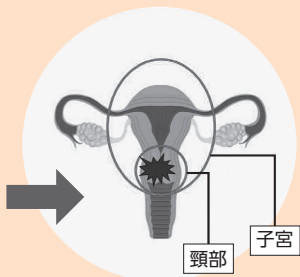
◀製鉄記念室蘭病院 産婦人科 科長 春日英貴子 医師

子宮頸がんとは？

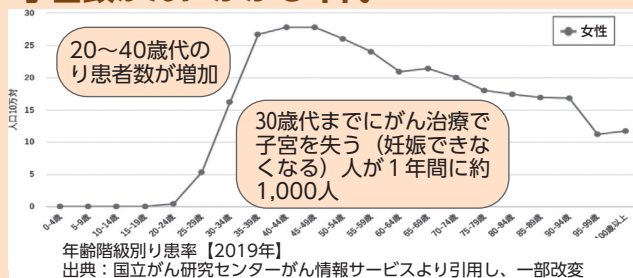
子宮の入り口にできるがん

子宮頸がんの95%以上はヒトパピローマウイルス(HPV)感染が原因

HPVは多くの人々が性交渉により感染



子宮頸がんにかかる年代

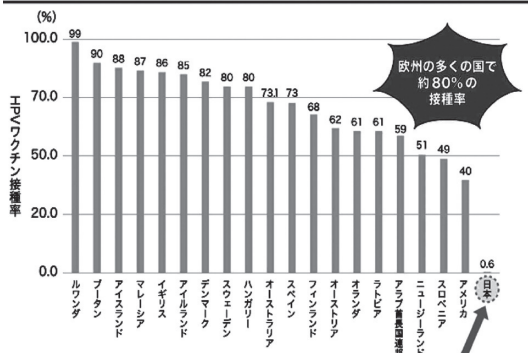


●HPVワクチンについて

現在、無料で接種が受けられるワクチンの種類は、2価(サーバリックス)、4価(ガーダシル)、9価(シルガード9)の3種類です。

9価ワクチンは子宮頸がんの原因となる80～90%のウイルス感染を防ぐといわれています。

図14 各国の子宮頸がんワクチン接種率



日本の子宮頸がんワクチン接種率は極端に低い

出典：子宮頸がんとHPVワクチンに関する正しい理解のために(日本産科婦人科学会編)

HPVワクチンで予防できるHPVの種類(型)

4価ワクチン

6型 11型

2価ワクチン

16型 18型

9価ワクチン

31型 33型 45型 52型 58型

定期接種

小学6年～高校1年生相当の女性

3回目までを無料で打ち終えるためには令和6年9月までに打ち始める必要があります。

キャッチアップ接種

登別市に住民登録のある平成9年4月2日～平成19年4月1日生まれの女性で、過去にHPVワクチンの接種を合計3回受けていない方は、令和7年3月31日まで公費(無料)での接種が可能です。

※無料の期間を過ぎると1回当たり約2～3万円の自己負担がかかります。

●標準的なワクチン接種スケジュール(接種間隔について)

シルガード®9

1回目の接種を15歳になるまでに受ける場合



9価

1回目の接種を15歳になってから受ける場合



ガーダシル®

4価



サーバリックス®

2価



接種間隔についての詳細は市公式ウェブサイトをご覧ください



出典：厚生労働省ホームページより抜粋

市公式ウェブサイト がん検診

ワクチンでは防げないHPV感染もあります。20歳になったら2年に1回、子宮頸がん検診を受けましょう。



ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がんとHPVワクチン(厚生労働省ウェブサイト)

